

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2009.6.1

No.59

創造科学に関しての第三弾です。創造主が六日間世界を創造されたと聖書は記しています。それを現代のクリスチャン科学者たちは次のようにとらえています。

第一日めは、「大気圏」の創造です。

『大空が水の真ただ中であれ、水と水との間に区別があれ。』神は大空を造り、大空の下の水と大空の下の水を区別された。するとそのようになった。』 (創世記一章六・七節)

大空の下の水は海のようなものと考えられませんが、大空の上とは何でしょうか？これが水蒸気の層だと創造科学者たちは考えました。水蒸気は目に見えないので、あってもなくても地上からの見え方は変わりません。ただ厚い水蒸気の層があると今以上に、生物に有害な宇宙線をブロックしますし、地球全体の気候を穏やかにします。ちょうど地球全体が温室のようになり、北極に至るまで温暖な気候になるのです。かつては北極にも木が生い茂っていたことが今ではわかっています。北極の地下にある石油層はその証拠です。水蒸気の層があると気圧も今とは異なり、気象状況もかなり安定していたと考え

神話か真理か？ 創世記

られます。地球は「水圏、気圏、岩石圏」の三つから成り立っていますが、二日目まででその二つができました。

二日目は、「岩石圏」の創造です。

『神は仰せられた。』天の下の水が一所に集まれ。かわいたところが現れよ。』そのようになった。神はかわいたところを海と名づけられた。』

(創世記一章九・十節)

二節で「地は茫漠として何もなかった。」とありました。最初、茫漠(とりとめもない状態)だった物質は、形あるものに作られていきました。今私たちが暮らしている陸上がこのときに整えられたというのです。

『天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、これを茫漠としたものに創造せず、人の住みかこれを形造った方。』

(イザヤ書四十五章十八節)

ちなみにこれも進化論で考えられている仮説と異なります。進化論では、陸地ができて、あとから海ができたと言っています。しかし、聖書は水の塊(泥水のようなものだったかもしれません)から陸地が形成されたと証言しています。

地球全体が磁石のようになっており、磁界を持つていることはご存知でしょう。(方位磁針が北を指すのもこの理由です。)この磁界は

岩石圏のできたときに始まったのではないかと考えられています。この磁界によって宇宙からの有害な宇宙線や太陽風をブロックし、生物を守っているのです。(この時点ではまだ生き物はいませんが・・・、すべての環境を整えてから、植物や動物が造られたと言っています。)

この三日目に「植物」が造られました。

『神は仰せられた。』地が植物、すなわち種を生じる草やその中に種がある実を結ぶ果樹を、種類にしたがって、地の上に芽ばえさせよ。』そのようになった。』 (創世記一章十一節)

植物の中には受粉を虫によって行ってもらうものがあります。今でもりんごやいちごを栽培している農家は、ハチを購入して受粉作業をさせています。(今年はこのハチ不足で大きな問題になっています。)(花粉を食物としている虫も数多くいます。すなわち、ある花とある虫とは緊密な関係があり、どちらか一つ完成しただけでは、しばらくすれば絶滅してしまうのです。花のつくりにあつた昆虫の口の形などを見ても、驚くべき共生関係です。進化に何億年かかったと言いつつ、それらが同時に進化したなど突拍子のないこと。助け合うように意図され、造られたという方が理にかなっているように思うのですが・・・。



「こんなことしました!」行事報告

五月

- 三〜五日 バイブルセミナー(協同学苑)
- 六日 下関の祖父母、金婚式の祝賀会
- 十一日 M 十七歳誕生日
- 十二日 塗り絵・工作教室「貼り絵をしよう」
- 二十二〜二十三日 チア・コンベンション(生駒聖書学院)
- 二十四日 北田辺の祖父、誕生日会
- 二十六日 お作法教室

チア・コンベンション

R

今回六回目のチア・コンベンションに行きました。初めて行った時は四才でした。まだ、ホームスクーラーの友達は一人もいませんでした。でも、今ではいっぱい友達ができました。

チルドレンミニストーリーでは父の日のプレゼントを作りました。また、ナタンさんやティモシーさんが聖書の話をしてくださいました。ティモシーさんはプロジェクターを使って分かりやすく話してくださいました。

ほかにはお父さんとお母さんのために「ありがとう」の歌を練習をしました。そして、二日目に舞台上で発表しました。

外遊びは「旗取りゲーム」でした。男チームと女チームに分かれました。「旗取りゲーム」の決勝戦では勝ちたかったのでドキドキしました。最後は女子チームの勝ちでした。チアのスタッフの方々にはお世話になりました。次回のコンベンションが待ち遠しいです。

下関の祖父母の金婚式記念のため、カメラマンに撮ってもらいました。プロの指示のもと、大人数が見事に並びました。



コンベンションの様子。分科会では、MとHも話しました。

久しぶりの友達との再会もあり、中身が濃い2日間でした。

「苦手な勉強?...数学!」

M

「一番苦手な教科は何ですか?...好きな教科とセットで、よく聞かれます。好きな教科と同様、僕の答えは変わらず「数学!」

僕は数学が苦手です。ホームスクールをする前、小学五年生の時に「割合」でつまづいた時から始まり、どれだけ数学に泣かされてきたことでしょう。中三の時に高校課程へ進んだので、周りよりも早く始めたはずなのですが、今は追いつこうと必死の有様です...

数学の勉強も、基本的には公文を使います。しかし、公文は計算がメインなので、ワークなどと併用して使います。まず教科書などを使って基礎を詰め込みますが、数 + Bに入ってから、頭がオーバーヒート気味になります。

僕にとって数学は「苦手」な教科であって、それはこれからも続くと思いますが、「嫌い」ではありません。問題文の長い文章題が解けたときには、文系の勉強では味わえない快感があります。また、教科書や参考書でなく、数学のおもしろさを紹介している本に出会うとやる気ができます。神様がこの宇宙を数学的・緻密に造られたことを覚えるときに、この数学を勉強することで、少しでもそのすごさがわかればと思います。

今も試行錯誤で進んでいますが、神様に求めて祈りつつ、数字・計算式とつきあっていこうと思います。

編集後記

チア・コンベンションに家族みんなで参加。子どもたちをお世話して下さるスタッフは、みなニヶ国語を話します。それに感化されてか、子どもたちも英語で会話できたらなあ、とつぶやき...。しばらくは英語の勉強がんばれそうです。